

## 『共生の文化研究』第 12 号刊行にあたって

多文化共生研究所 所長 杉山三郎

「共生の文化研究」は、古代からある程度独立して形成されてきた集団／民族／国家が互いの交流や衝突の機会が増えるなか共存する道を探るという目的で、文化の地域研究や比較研究、また交流活動などを紹介しています。まず様々な他文化を描き出し、人類史のなかで生物多様性と同時に文化多様性の重要性を訴えることが使命と考えます。一方で、特にヨーロッパ列強国による大航海時代以降、加速度的にヒトとモノが交流し“混血”が進んでいます。情報技術やコミュニケーション・システムが急激に発展した現代まで、多文化要素を備えたモノと知識が融合を繰り返し、ユニバーサルな環境に囲まれた新しいタイプの集団が生まれ続けています。そもそも「伝統文化」・「民族アイデンティティー」とは何か、国民を連結させる「国家理念」とは何か、また「共生」とは何かが問われるべき時代と言えます。今後も各集団に特有な文化要素は生き続けるものの、一方で社会集団や文化の境界がますます不鮮明になってきています。今後は文化の融合から生まれる新しい文化・社会、さらに一個人に内在する複数の顔・アイデンティティー、多民族性、多重国籍をどう扱うか、踏襲された「文化」の枠を踏み出して考えるべき時代ともいえます。

実はこの傾向は、すでに古代から、特に人が急激に集合する都市の形成期より始まっていたと言えるでしょう。私達は現在、新大陸に最初に現れた巨大都市テオティワカンを掘っていますが、以前は謎の単一民族により創造されたと考えられていたテオティワカンも、近年の調査では以前考えられていた以上に多民族によるハイブリッド国家だったことがはっきりしてきました。ヒトが密集して住み始めると混血だけでなく、文化の融合が急速に進み、より複雑な社会・政治・経済システムが発展します。また技術や様々な知識も集積し新しいアイデアが生まれ、同時に疫病の問題も発生したと考えられます。地球上の人口の半数以上が都市に住む現代において、その発祥まで遡り都市問題を扱う「共生の文化研究」は益々重要な使命を負っていると感じざるを得ません。

最後になりましたが、私は本年度愛知県立大学退職に伴い、多文化共生研究所長をステップダウンし、今後は後方からサポートできたらと考えています。特にジャーナルやウェブページにより、日本語でも私達の研究成果を発信できたらと思います。(http://db.csri.for.aichi-pu.ac.jp/plaza\_of\_columns\_complex\_jp/) 他文化や多文化共生を扱う多くの研究者が、研究成果や活動の紹介に本研究所のジャーナルや研究ウェブサイトを活用して頂けたら幸いです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。